

草原新聞

第4号

平成19年12月
発行

一人ひとりが主役

「阿蘇草原再生協議会」

共通認識のもと、広がる活動の輪



この『草原新聞』は、阿蘇市郡内の小学校に通う児童1～3年生をもつ保護者の方にお届けしています。あわせて、小学1年生から3年生には『子どもそうげんしんぶん』を、小学4年生から中学3年生には『草原しんぶん』を配布しています。子どもたちとともに、草原に目を向けるきっかけにいただければ幸いです。

平成17年12月2日、阿蘇の草原保全・再生に向けた取り組みを進める、さまざまな団体や個人が参加し、自然再生推進法に基づく「阿蘇草原再生協議会」が設立されました。平成19年3月現在、地元牧野組合や区、NPO、専門家、地元住民、地方公共団体、関係行政機関などの124の団体・個人が参加しています。

協議会は、実際に活動する人たちがそれぞれの活動計画や情報を持ち寄って、協議や連絡調整をする場です。平成19年3月には、草原再生の取り組みを進める際の指針であり、協議会の参加者が協力・連携しながら、それぞれの取り組みを展開するための共通認識として「阿蘇草原再生全体構想」が策定されました。今後は、全体構想をふまえ、それぞれの取り組み・事業計画について協議し、草原再生の取り組みを促進していきます。

また、協議会には、「牧野管理」、「生物多様性」、「草原環境学習」、「野草資源」のテーマごとに4つの小委員会が設けられており、専門的な視野での協議・助言を行っています。

風物詩

「雲海」

阿蘇では年間を通して雲海が見られますが、中でも秋に発生する綿状の雲海は見ごたえがあります。初秋のおだやかな早朝、外輪山上から阿蘇谷一面に、白いじゅうたんのよう広がる雲海は、まさに壮観です。



草原を学ぶ『出前講座』産山小学校

10月1日、産山村立産山小学校へ、出前講座に行ってきました。

同小学校では、学びの連続性を確保するため、中学校と連携した小中一貫教育に取り組んでいます。そのテーマの一つが「うぶやま学」です。

これは、小中学校での9年間に、地域との連携や地域人材との交流を通して体験を重視した学習を行い、産山の自然、人とくらしについて学び、自己の生き方を考えるというものです。この中で5年生のテーマは「草原」となっています。

出前講座で子どもたちは、草原についてのクイズや、草原の生き物の立場になって考えるゲームを通して、草原と人々の関わり、そこにひろがる草原環境について学びました。子どもたちからは、たくさん質問があり、地元阿蘇の草原環境に興味をもってくれているようでした。

阿蘇の草原は、ずっと昔から人の手があって守られてきたこと、その歴史を誇りに感じてほしいと思いました。





やまなみハイウェイやミルクロード沿いの草原において、草小積が見られます。1月末まで見ることができますので、阿蘇草原のわざを見に行ってみませんか？

子どもに伝える阿蘇の草原



採草作業

ここでは、小学校1～3年生向けの草原新聞で取り上げている題材を簡単に解説しています。

秋になると、阿蘇の草原で草刈りが始まります。この作業は、干し草刈り、刈り干し切りなどと呼ばれ、9月中旬から10月中旬まで続きます。

刈った草を、2、3日乾かした後、束ねて保存します。昔は刃渡り40センチほどの大鎌をふるって刈りましたが、最近ではエンジン付きの刈払い機や大型の草刈り機を使うのが主流です。

干し草ロールは、直径2メートル、重さ400キログラムほどのものもあり、その大きさに驚かされます。草小積みは、稲手でくくった草を60把(牛が運ぶ場合、10頭分にあたる)も積み上げて作りますが、最近は見かけることが少なくなりました。

こうして蓄えられた干し草は、冬の間の牛馬の餌や畜舎の敷料となります。また、牛馬の糞が食べ残しの干し草や敷料と混じり合っている既肥は、野菜を育てるための良質な肥料として利用されます。昔は、茅葺き屋根を

葺くのにも用いられました。草刈りを行う草原では、スキの占有が抑えられるため、多様な植物の生育が可能となります。春から夏にかけて、次から次へと色とりどりの花が咲き乱れる草原は、草刈りをすることによって保たれているといえます。

草を大切に利用してきた阿蘇には、「草小積み」などに代表される「採草文化」があります。自然の資源を大切に利用してきた歴史や豊かな文化が、結果的に、多様な動植物が育つ草原環境に繋がっているのです。

時代とともに草の利用が減り、豊かな草原環境や文化が消失の危機にあります。こうした現実にも目も向けながら、子どもたちと一緒に阿蘇の草原について考えてみてはいかがでしょうか。

保護者の方へ

今回の子ども向け草原新聞のねらい

小学校1～3年生を対象とした『子どもそうげんしんぶん』では、阿蘇には、草という資源を大切に利用してきた歴史や、豊かな文化が息づいていることを伝えることをねらいとしています。阿蘇の草原保全のために何ができるか、子供たちと一緒に考えてください。

子どもたちの作品を募集します

小学1年生から3年生の児童の保護者の方へ

- 『子どもそうげんしんぶん』の表面のぬり絵を完成させ、封筒に入れ80円切手を貼付の上ご投函ください。
 - 作品はご返却いたしませんので、新聞の裏面に住所・氏名をご記入ください。
 - ご応募いただいた作品は、すべて休暇村南阿蘇に展示させていただきます。
- 【休暇村南阿蘇】住所:熊本県阿蘇郡高森町高森 3219
Tel: 0967-62-2111
- 応募作品の中から入賞作品を選び、表彰時に賞状と副賞をお渡しします。表彰式の開催については、入賞者に後日お知らせします。
- あて先: 環境省 阿蘇自然環境事務所 (担当 永原)
〒869-2225 熊本県阿蘇市黒川 1180
- 締め切り: 平成20年1月18日(金)
- 備考: ぬり絵コンテストの最新情報は、ホームページをご覧ください。
<http://www.aso-sougen.com/kids/index.html>



環境月間でぬり絵を表彰

6月3日、熊本市の熊日会館「びぶれす広場」で子どもそうげんしんぶんの第3回ぬり絵コンテストの表彰式がありました。120通もの応募作品の中から選ばれた入選8作品が表彰されました。

- 【金賞】高橋 明香里 (乙姫小学校)
井 宏通 (りんどうヶ丘小学校)
- 【銀賞】増永 佳奈 (中原小学校)
後藤 涼佳 (白水小学校)



- 【入賞】渡辺 将伍 (長陽小学校)
松岡 星菜 (乙姫小学校)
松井 野乃安 (中原小学校)
中川 桃夏 (白水小学校)

親子で楽しむ草原 × 第4回: 俵山展望所

俵山峠は、南阿蘇村と西原村の境、熊本高森線(県道二八号)が南外輪山を越えるあたりに位置しています。米俵を重ねたような形をしていることから名づけられたといわれています。

駐車場のすぐ近くに、草原に囲まれた展望所があります。眼下に広がる南郷谷と阿蘇五岳の眺望が素晴らしく、日の出スポットとしても知られています。俵山頂上までのハイキングは、親子で楽しむことができます。